13. HBs抗原・抗体，α-fetoprotein（共にRIA法）および肝シンチによる肝疾患の検討（第4報）

○今枝　孟義　　仙田　宏平
松浦　省三　　後藤　雅博
（岐阜大・放）

日常臨床においてRI複合診断法は日々その重要性を増しつつあるが，我々はここ3年間HBs抗原・抗体，AFPおよび肝シンチ，RI angioなどを組み合せることによって肝疾患の診断を行い，そのつどそれらの相互関係につき報告してきた．

今回は症例数もふえ，2, 3の結果をえたので報告した．HBs抗原陽性率は急性肝炎（A.H. と略す）55例中44%，輸血後肝炎（P.T.H.）11例中36%，劇症肝炎（F.H.）8例中38%，慢性肝炎（C.H.）495例中17%，肝硬変症（L.C.）207例中25%，肝細胞癌（Hepa.）86例中38%（内L.C.合併（＋）47例中53%），胆管細胞癌（Chola.）10例中10%，転移性肝癌（Meta.）151例中3%であった．HBs抗体陽性率はA.H.47例中15%，P.T.H. 13例中15%，F.H. 13例中38%，C.H. 230例中37%，L.C. 225例中34%，Hepa. 84例中26%（内L.C. 合併（＋）45例中20%，合併（－）37例中35%），Chola. 10例中4%，Meta. 142例中40%であった．また幼児例を除いてAFP 300ng/ml以上はA.H. 88例中0%，C.H. 560例中2%，L.C. 354例中4%，Hepa, 82例中71%，Chola. 10例中10%, Meta. 142例中4%（すべて胃癌原発）であり，さらに3,000ng/ml以上の52例中A.H., L.C.は0%，C.H.は4%，Hepa. 90%，Chola. 2%，Meta. 4%であった．また肝シンチの施行してあるHepa. 74例中solitary defect（S.D.）は57%，multiple defect（M.D.）は36%，残りはどちらとも読みえるもので，これらとAFPの関係をみると320ng/ml以上はS.D.が60%に対しM.D.では89%と高くMeta.との鑑別にAFPが重要な検査の1つと思われるが，この場合Meta.でも胃癌からのものは高値を示すので注意を要した．

14. 金コロイド使用時，腸管への排泄像——臨床例報告（第1報）

内藤　勇
（岐阜大野荘病院）

肝シンチグラムを目的として金コロイド300μCi静注し40分後に撮影したところ500例中10例（2%）に腸管とくに大腸の描出される所見を得た．シンチカメラ，放射性医薬品の純度および腸管の認められた10症例につきその原因を究明検討したので報告する．金コロイドの純度はダイナボット社のpaper chromatographyでみるとfreeが少なく問題がないと思われる．10症例について一般肝機能検査，HB抗原，α-フェトプロテン，^{131}I-BSP停滞率，^{131}I-PVP試験，UIBCなどを施行したところほとんどすべての症例が正常値を呈し，肝疾患に特異的ではない結果をえた．

さらにBa検査，内視鏡検査などによって潰瘍，ポリープ，憩室などの出血を呈するような疾患は認められなかった．ただし陽管の描出された時期に一過性にNa値が全例に低値で，また自覚症状として下痢気味，下腹部痛などを認め陽管ジスキネジーの存在する状態が疑われた．

15. 肝シンチグラムにおける肝左右葉境界についての検討（第1報）

今枝　孟義　　仙田　宏平
松浦　省三　　後藤　雅博
（岐阜大・放）

肝シンチグラムにおける肝左右葉境界が解剖学的境界によって境されるのか，または脈管系を考慮にいれたCantlie氏線（胆嚢床から下大静脈に向う線）によって境されるのかにつき剖検例と比較検討し2, 3の結果をえたので報告した

（方法）^{99m}Tc-phytate 10～15mCiを静注し20分後に患者を仰臥位にさせNuclear Chicago製シンチカメラH.P.を用いて正，側，後面像を各々左右別々に右側を20×10^4 counts(左側をそのpreset

Presented by Medical*Online